



聖 鐘

日本聖公会東京聖三一教会

〒155-0032 東京都世田谷区代沢 2-10-11
TEL 3421-3646 FAX 3414-9023
URL trinity.web.infoseek.co.jp

牧師 司祭 長谷川正昭

この杯を飲む

司祭ヨナタン 長谷川正昭

「この杯を受けてくれ、せめてなみなみ注がせておくれ、花に風のたとえもあるぞ、さよならだけが人生だ」

酒豪として知られた李白の漢詩

をこのように見事に訳したのは、確か井伏鱒二だったと記憶しています。

イエスもかなりの酒豪だったことが福音書から伺えますが、弟子のゼベダイのヤコブとヨハネの兄弟が、あなたが栄光を受けるとき、右と左に座らせてほしいと願ったとき、イエスは「おまえたちは何を願っているのか自分でもわかっていない。この私が飲もうとしている杯を飲むことができるか」と問いかけました。このときの杯は文字通りの酒盃を意味するのでないことは言うまでもありません。苦しい杯、飲みたくない杯、取り除けて欲しいとイエスがゲッセマネで、神に訴えた十字架の道を指しています。

この杯を飲むことは誰もが望まない苦難の道であり、出来るなら避けて通りたい「狭い門」です。

しかし、私たちは好むと好まざるを問わず、人生の軌跡の中で、さまざま苦難や試練に遭遇します。恐らく、二人として例外はないと断言できます。

ボンヘッファーという20世紀を代表する神学者の一人は「私たちと共にいたもう神は、私たちを見捨てたもう神なのだ」と凄いことを言っています。獄中書簡集のなかの一節ですが、その時の彼はヒットラー暗殺計画に連座して逮捕され、拘禁されていました。

この言葉は彼の置かれた厳しい状況を反映しているだけでなく、すべての人間の人生にあてはまると言つてよいと思います。私たちの人生のすべてとは言えませんが、見捨てられた部分があることを認めないのは誤魔化して生きることを意味します。

無神論者の或る有名な作家は「人間というのは無益な受難だ。」と喝破しましたが、まさにそのとおりに言

わざるを得ません。

私たちは無神論者ではないのでかえってその嘆きはもつと深いかもしれませんが。何かベシミスティックなことを書いてしまいました。ことさらに人生の暗い面ばかりを見つめようと言うのではありません。

現実を誤魔化せずに、直視しながら、「それでもなお人生にイエスと言う」(V.E.フランクル)が必要で、現実が現実として受け入れながら、そこに喜びと希望の芽を見出し、たといえそれが些細な、小さなものであっても、そこに私たちを生かしている神の恵みと憐れみがあるのを認めていくことです。



バザー考

長谷川庄司

東京聖三教会のバザーは広い庭が与えられていることで、大変華やかな、賑やかな催しとなっています。高齢化に伴い、このバザーもいつまで続けられるかと危ぶむ声も出始めましたが、これだけの敷地を生かしながら、なるべく労力のかからないフエスティバル的なものに移行する方向が一つ考えられるのではないかと思います。

昔前までは、バザーの収益はすべて外部にお奉げするというのが本旨でしたが、収益の一部を教会に繰り入れるようになったのはやむを得ないことだと思います。しかし、それでも社会福祉や海外の支援のために私たちの働きの果実を奉げることが出来ることは素晴らしいことだと思います。

神戸に居た時、或る教会の女性信徒が、バザーの準備をしていると、いついそさまが現れて、机をひっくり返してしまわれるのではないかと心配になることがあると言った事があります。福音書に出てくる宮潔めの記事のことを言っているのです。確かに「祈りの家を強盗の巣にして

はならない」とイエスは言われ、神殿で売り買いしている者の台をひっくり返したと書いてあります。

この女性信徒の危惧は根拠のないものではなく、むしろきわめて正當な、まともな感受性の結果であると言いうことが出来ます。



しかし、また一年に一回、教会が一つになってバザールを敢行するのは教会にとって意味あることという考え方もできます。教会が目指す「魂の救済」とその拡張という意味での宣教は、目に見えないものですから、具体的には礼拝出席の増加、教勢の拡大というかたちでしか確認できません。しかし、それはすぐに効果を現したり、目に見えるかたちを取る

ものではないようです。つまり、私たちの汗の結晶を確かめるすがすがしなかな与えられないのが現実です。

教会建築とかバザールというのは目に見えるかたちで私たちの思いを実現し、具体的な働きをとおし目に見えない存在に答えていくという意味では、とてもわかりやすく、取り組み甲斐のあるものです。

そんな世俗的なやり方はやめて皆が目標準額を分担して献金すればよいという意見の人もいます。大勢の信徒が集まってバザーのために準備をすれば、当然さまざまな問題が頻出します。そのことを考えると献金すればよいという意見に組したくなる場合もあります。

また、どの教会、どの教派でも若者が少なく、高齢者が多いというのが現実ですから、なかなか働き手が確保できず、ついに或るカトリックの教会ではバザーの開催を取りやめたという情報も入ってきました。

おそらく、どの教会も明日はわが身と考えているでしょう。このような厳しい内外の情勢ですが、一つの明るい材料は近隣からの献品が絶えないということなんです。このことが三教会のバザーにかかわる者にとっては励みであり、原動力になっていると思われれます。これが続くかぎり、わ

がバザーも途切れることはないでしょう。教会が地域社会とつながる機会はきわめて少ないですから、隣の方々とこの接触を大事にしていきたいものです。

2007年のバザーは「何かが」行きます。

バザー委員長 東理夫

◆今回のバザーのテーマは「何が出てくるか、わくわくバザー」と名付けました。

◆教会内部向けには「皆で楽しむバザー」で、誰か一人が苦勞するのはもうやめようと考えています。

◆出し物の大きな変化では「福引」は、がらがらボンでやるので、バザーの終わり近くにはやらずにいつでも福引できるようにしました。

◆また、食べ物関係は出店場所を二列に集中。あちこちに行かなくとも、何を食べたいか食欲を刺激するように考えました。カクテルが今回はなくなってお酒はワインだけになりました。皆様のおいでお待ちしているそうです。

◆中古衣料・三ブティックの売場を、ホールの入り口から右側一列に大きく広げました。同時に前回まで、

この場所にいた「什器」はトリニティハウスの一階に変更。これまで多くの商品が展示できなかった悩みが解消されると思います。

◆「掘り出し市」と「バッグ・ベルト・靴」の両売り場は、牧師館横の駐車場に大きく店を出すことにしました。これで、お客様もじっくりと腰を落着けて商品を品定めできるのではないかと思います。

いつものように1週間前から教会の近隣にお誘いのチラシ撒きをします。多くの方のお手伝いを必要としています。都合のつく時間で構いませんのでご参加をお待ちしています。

教会委員任期2年に短縮

臨時信徒総会で承認

臨時信徒総会は10月14日、主日礼拝後開かれ、教会委員会提出の「教会委員選挙規則改定案」を審議、賛成多数で同案を承認した。主な改正点は

①委員総数を1人増員して16人とした②任期を従来の3年を2年に短縮した③この結果、現委員は総辞職し、12月末に行う委員選挙で来年度からの新委員を選出する運びとなる。

◆教会委員会の委員定数は現行「15人」を「16人」に改定。

◆被選挙人の資格Ⅱ「選挙が行われる年の前年の11月1日から選挙が行われる年の10月31日までに、当教会で2回以上聖餐を受けた」を、歳以上の者。

◆選挙人の資格Ⅱ12月1日現在、16歳以上の受聖餐者を選挙人資格者とする。但し礼拝堂以外で聖餐を受けた者でも牧師が認める者は選挙人になることが出来る。

◆教会委員の任期Ⅱ現行「3年」を「2年」に改定。

◆教会委員の任期終了後の被選挙人名簿に記載されない期間は、現行の「2年」を「1年」に改定。

◆選挙管理人は、現行の「9人」を「8人」に改定。

◆被選挙人は現行の「選挙管理人が選ぶ5人まで」とあるのを「当該年度の教会委員」の人がそれぞれ3人を選び、そこで選出されたすべての者を被選挙人とする」に改定。

◆選出委員数は現行の「5人および補欠2人」とあるのを「8人および補欠男女各2人」に改定。

◆立候補者または推薦者は、「二月第3主日までにその旨を立候補理由または推薦理由と共に書面で選挙長に届けなければならない」

◆現在、教会委員会の申し合わせ事項として「74歳以上の者は被選挙人とならない」としているが、「定年制は設けないが、75歳以上の者は被選挙人の資格を放棄する権利を有する」という文言を追加する。

◆教会委員の男女比率の適正化を図るため「当選者の決定に当たり、男女とも最低3人は得票順に従い選出する」を追加する

韓国キリスト教事情

アフガニスタンでの韓国キリスト教徒人質事件は記憶にまだ新しいが、最近の韓国のキリスト教事情について、産経新聞の黒田ソウル特派員は興味深い記事を伝えている。

◆韓国のキリスト教徒は人口の3分の1、1500万人に上るといふ。韓国社会は昔から地縁、学縁などの人脈社会といわれ、それに加えて今や「教会縁」ができており、教会は有力な社交場として人脈形成の場になっている中央日報。韓国内には現在3万以上の教会が存在、ソウル首都圏では喫茶店より多いとさえいわれている。積極的な宣教活動も盛んで、

海外派遣の宣教師も1万人を超え、米国に次いで世界2位という。

教会礼拝で驚くのは、牧師の情熱的な説教ぶり、信徒たちの無我没入ぶり。世界最大という巨大教会もあり、歌や音楽を交えたイベント風の大掛かりな宣教風景も見られる。また宣教イベントで2万人以上集めたある教会では「過去を問うな。共に手をたずさえて日本救済」を強調して日本での布教をめざしている。

◆知日派作家で元文化相・李御寧氏は、韓国人の宗教的情熱について「韓国人は日本人より靈性に強く反応する」と語る。東京特派員の経験のあるジャーナリストは、韓国人の国民性について「何事にもすぐ一生懸命になり、感情的とみられるほど情熱的で、しかも自己主張が強く、それを他人に押しつけたがる性格」が信仰と布教への情熱につながっているといふのだ。

しかし、韓国キリスト教は国内的にはすでに飽和状態というのが一般的見方。その分だけ海外進出が活発になっており、韓国キリスト教関係者から見れば、布教活動に生ぬるい日本は、さしずめ格好の宣教ターゲットかもしれない。

【書評】

『瞑想とキリスト教』

Ⅱ 牧師が試みた禪・タオ

・ 密 教の世界Ⅱ

◆東京三教会の長谷川正昭牧師がこのほど標題のような著作を出版した。 聖職者の著書と言え

ば、一般的にはキリストの福音とか、信仰のあり様を説きたいわば「教科書」的なものを連想するが、同書はその種のものとはいささか異なる。

ひと口で言えば、一人の宗教者がキリスト教をどのように受けとめ、いかに取り組んできたかという自伝的な要素と、新しい形の信仰についてひたすら模索、葛藤を続けている。修業者の心の軌跡の記録でもある。そして、まだ道半ばながら著者が今、究明しつつある仏教（禪・密教）、タオ（道教・老荘思想）など東洋文化思想・哲学とキリスト教信仰との融合を試みつつある独自の神学論とも言える。

◆日本のキリスト教は、明治の文明開化の波に乗って、本格的に汎神論的風土に布教が始まってからおよそ130余年、現在信徒数は100万人前後で停滞し伸び悩んでいる。その原因はなんなのか。この点につ

て著者はこう言っている。「和魂洋才の言葉通り、キリスト教は日本人の心に深い影響を与えることなく、表面的なモダンさと、バタ臭さだけが取り沙汰され、二応の近代化を果たした今日、敬遠される結果となった。私はそれを『ブランドとしてのキリスト教』と呼んでいる」とはかなり手厳しい。



◆著者は一九八八年、韓国聖公会ソウル教区の初代主教、李天煥師の「東アジアの神学」と題する説教を聞いた。「東洋人の哲学思想も宗教も西欧人のものと異なるにもかかわらず、過去の東アジア諸教会は西欧の神学を無批判に踏襲してきた。これは神学の貧困、神学不在を意味する。東洋の宗教とキリスト教を神学的に接近させ、聖公会神学に発展させなければならぬ」

著者はこの李主教のメッセージに強く触発され、「二十一世紀の日本の

教会の進むべき道を示唆されたように思った」と述べている。そして「西欧キリスト教の行き詰まりはもはや現象ではなく、克服すべき神学的課題である」との認識を示し、特に同主教の「東アジアの共通の宗教的伝統」との言葉に共感を覚えたとしている。著者のこの理念は聖職者としての基本的な神学的な方向性を明確に示すものだろう。その具体的証左として、この度の東洋文化とキリスト教の融合を模索する著作上梓につながったように思われる。

それにしても李主教が示した東アジアの神学理念、思想が、日本聖公会のみならず日本のキリスト教界において、過去二度も議論の俎上に載ったことがないのは何故なのか、読者にそんな疑問を抱かせる。

◆著者は座禅・瞑想をもう30年続けています。朝晩30分瞑想してひたすら呼吸を数える(数息観)すそくかん)と呼吸は静かになり、やがて消滅するといふ。座禅による

瞑想(瞑想)は「神との相撲」であり、極めて深い境地をもたらし、くれる、として瞑想を重視する。著者によれば、もともと瞑想は西方キリスト教の身体的技法としての伝統であったものが次第に失われてい

たという。著書は「失われたキリスト教」の回復のために、東洋的な瞑想の伝統に学ぼうとする試みである、としている。

また著者は、聖書の「初めに言葉あり」で象徴される「言葉(こゝろ)の信仰」の見直しと「身体性の信仰」をもっと重視すべきと主張する。禪、瞑想という所作は心の問題だけでなく、身体に関わるものであり、「ある意味で教会の中で最も欠けているのは身体性だ」と指摘する。機会があれば身体論を軸に据えた神学を展開したいと意欲的。今回の著作はその準備のための序説的なスケッチだといふ。

◆著書副題の「禪・タオ・密教の世界」は、仏教、道教など東洋文化・哲学思想。著者も序説で「個人的、私だけの世界の開陳」と率直に述べているように、一般読者にとってはいささか難解な世界であることは否めない。しかし、全体的に出来るだけ難解な表現は避け、平易な筆致の読み易い文体である。

著者は希代の読書家だけあって博覧強記、その博識ぶりに驚かされる。

著者はあとがきで「本文の脱稿してから何か憑き物が落ちたような気分となった」と述懐している。4

年間勤務した神戸松蔭女子大学のチャペル室の窓から六甲の峰を眺めながら少しづつ書きためたものや、長年胸中に温存しておいた熱い思いを、一気にこの著作に打ち込んだ、そんな気概が読む者に伝わってくる一書である。(編集子)

まじわり

「岸 郁子」です。よろしく



この月から私たちの仲間入りした郁子さんが生れ育ったのは、空海開祖の真言宗の家庭だった。彼女が神と出遭ったのは、キリスト教教育で知られる恵泉女学園英文科二年の学生時代。スイスの神学者ブルナーの「我らの信仰」をテキストに聖書研究にいそしんだという。やがて日本基督教団所属教会の門を叩

いた郁子さんは、当時の心境をこう語る。

「牧師さんの旧訳聖書による説教に圧倒されました。そして毎日曜日、熱心に勉強する人たちの姿に驚き、自分もそうなりたいたいと思いました」

そんな熱い気持ちを抱きながら同教会で洗礼を受け、イエスさまの弟子に連なりました。

夫は6年前、義母は4年前昇天した。これを機にそれまで二人住まいだった母堂と共に暮らすようになつた郁子さん。「私いくつだっけ?」と聞く母に「95歳よ」と答えると、へとと驚く母親。こんな穏やかな母子の話が絶えない今の日々の生活。

長女、長男はすでに独立して家庭を持ち、3人の孫にも恵まれた。郁子さんの母親も10代の男の子と女の子2人の曾孫をこよなく可愛がっているという。「気持ち良くご挨拶出来る大人の教会」というのが郁子さんの三教会の印象。パウロ教会(前籍)の加藤博道牧師(現東北教区主教)から、「理想的な教会奉仕のあり方」と聞いていた三教会の働きグループには「ぜひ参加させてください」と意欲を見せている。

(編集子)

リレートーク

「あなたがたに

平和があるように」

小林幸子

「嬉しい? 十年経ったけど 原爆を落とした人はわたしを見て 『やった! またひとり殺せた』 とちゃんと思っていてくれとる?」これは、「夕風の町 桜の国」という映画の主人公の台詞です。広島での被爆から10年後、無残にも死んで行かなければならない若い女性の言葉なのです。彼女は「死ねばいいと原爆を落とした人に思われたのにもかかわらず妹が熱い熱いと言つて死んでいったのに、私は生き延びている」という意識をもつて暮らしています。けれども、好きな相手から「生きとつてくれて有難う」といわれて「生きる」とこの意味や「生かされている」ことの思いを強くするのです。やがて命が取り去られる時、冒頭の台詞が呟かれるのです。

この映画は、戦後60年以上を経ても、戦争が、放射能が人を苦しめ、人生をも、いのちをも奪い続けていることを告発しています。米国の人にも是非見てほしいと思います。(全国ロードショー中)

東京教区は戦後50年のときに、戦争体験の証言を集めた「平和を祈る」という小冊子を出しました。その中に私たちの教会の寺内安彦さんが東京大空襲について証言されています。そして「体どうしたら若い人たちに戦争とは悲惨な醜い最悪の営みだということが解つてもらえるだろうか。戦争こそが、人間が神さまから最も離れているときの状態だということ」と述べておられます。戦争のむごさが、忘れられてしまうことがないように、伝えていくことの大切さは、今も変わりません。「あなた方に平和があるように」と語られる方は、今、私たちが何を守り、何を大切にすべきかを問い続けておられるのです。



鴨川シーワールドを楽しむ

教会恒例の教会員によるバス旅行がやや雨模様様の9月11日(火)、長谷川牧師夫妻はじめ34人が参加して行われた。午前8時渋谷を出発した二行は、東京湾横断アクアライン經由で一路千葉県鴨川市へ。昼前に到着した聖フランシス教会(写真)では、長谷川牧師司式による礼拝が捧げられた。私たち二行のためわざわざ出迎えてくれた5、6人の信徒により手作りのデザートが振る舞われ歓待された。感謝。



教会をあとにした二行は昼食後、鴨川シーワールドへ。水族館を見学した後、イルカ、大型シヤチの演技場へ。調教師の合図で水面上、高く乱舞する数頭のイルカ、そして人を背中や頭に載せて行動するシヤチの

演技に二行は惜しみない喝采、しばし童心に還って楽しいひと時を過ごし帰途に就いた。

この旅行の準備万端を整えてくれた西澤功幸さんには、旅行中も一行はすべてオンブにダッコ。深甚なる感謝。

(凡)

夏の行事

今年の夏は前半の天気が定まらず、本当に夏が来るのかと心配になるほどでしたが、後半から9月末までは大変な暑さとなりました。教会ではいくつか行事を予定していましたが中止になってしまふものなどもあり、天候に振り回された夏となりました。

毎年夏休みに入る前にぶどうの木のでりキャンパが予定されていましたが天候不順のために中止となってしまいました。楽しみにしていた子供たちには残念な事でした。

ファミリィキャンプは7月の末に計画され、場所も今までに何度か使用した箱根の施設で行う予定でしたが、天候不順のためか、参加者が少なく来年に順延となりました。来年は良い天候のもとで実施できることを願っています。

8月の末に予定されていたファミリィパーティーは天候も回復してきただためか無事開かれました。2時から水遊びなど子供のためのプログラ

ムを行い、晩祷の後に大人たちが加わり楽しいひと時を過ごしました。今年のトピックは2年にわたって予告されてきた「オヤジコース」のデビューです。やっとう曲目が決まり、何度も練習を重ね初舞台を踏むことができました。

本来、敬老会は9月の半ばに行われているので夏の行事には入りませんが、今年は一週間繰り上げたために夏の行事の中で報告します。現在90名近い方たちが敬老会の有資格者です。この中から今年の敬老会には37名の方たちが出席をして下さいました。

毎週礼拝に来ることは難しい方々も増えてきてしまいました。が、いつまでもお元気であられますようお祈り申し上げます。

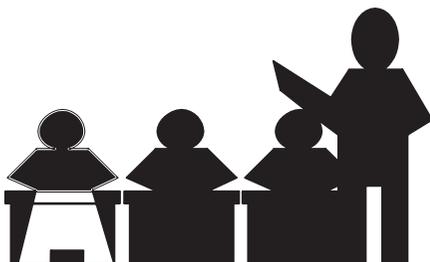


ブドウの木の机と椅子が新しくなりました。

9月にブドウの木の小さい子供たちのための机と椅子が購入されました。

教会ホールの窓際に小さな可愛らしい机と椅子が置かれています。小学生低学年というよりは幼稚園の子供たち用という大きいです。

今まで小さな子供たちに合った机と椅子は教会にはありませんでした。よく考えてみると何故気がつかなかったのかと思ってしまう。体格に合った机と椅子で思う存分読んだり、書いたり、作ったりしてくれるでしょう。



【 教会委員会議事録抜粋2007年5月~7月 】

<5月>

- ・聖霊降臨日の通知を葉書で出すことにした。
- ・聖堂水銀灯8個と祭壇天井の照明を取り替えた。
- ・週報作成スタッフ。菊池英男さん、西澤功幸さん、中野誠さん、藤松曜さんでローテーションすることになった。
- ・会計報告。4月はほぼ予算通りにて推移。
- ・アスベスト調査。調査工事を承認。地下に下りる階段を途中で塞ぐ。
- ・耐震調査。清水建設に耐震調査見積もりを依頼。
- ・言いっぱなし懇談会のフォローアップ。来年120周年を迎えることと、建物のことがクローズアップされ、参加者には土地売却・移転に対する賛成意見もあった。全体のまとめを聖鐘に載せ、その後話し合いを行う。
- ・事務所の鍵問題。今後は、オルガニスト、会計担当、総務担当が持ち、メンテナンス担当もしくは他の方が必要な場合には総務担当から預かる方法に決定。
- ・礼拝出席者は、2006年と比較して微増。
- ・イースターの写真担当。来年以降は総務が担当する。
- ・ホームページ。内容について、川村啓三委員、千村雅信さん、藤松曜さんが検討する。

<6月>

- ・礼拝式アンケートや意見は、礼拝委員会がまとめ、教会委員会に報告しながら修正をしていく。
- ・総務・事務関係。教会keyの保管について報告があった。働きグループのリストを作成した。引き続き申し出を受け付ける。
- ・会計報告。5月分は、ペンテコステ・ミニバザーに助けられ、約28万円の黒字となった。
- ・教会委員選挙規則改定に関する中間報告。長谷川司祭とリーダー加藤望、江川素子、川崎葉子、名倉徹、中野恵美子、東理夫、村上道夫各氏によるワーキンググループが編成され検討が重ねられている。最終案をまとめ、受聖餐者総会で承認を得たい。
- ・事務スタッフの募集。事務スタッフ菊池英男氏の補助者数人を募集したい。

- ・言いっぱなし懇談会。4月に行った「第2回言いっぱなし懇談会」。教会委員会は、さらに信徒全員の意見を聴く方向で、120周年の取り組みを検討している。この件について、臨時教会委員会を開催する。
- ・教会メンテナンス関係。アスベストと耐震状態調査に200万円ほどかかる。今後は構造計算の必要もあり、建物保全調査を行う。

<7月>

- ・須賀義和執事は第2主日にも説教をされる。
- ・教会委員選挙規則改正案および教会委員選挙管理人規則改正案。あらかじめ全信徒に配り意見箱を設け、聴聞会を開くなどの後、臨時受聖餐者総会(10月第2主日の予定)を開いて決める。2年任期で委員16名とする。次年度半数改選。2年休み。被選挙人名簿の辞退は認めない。委員に選出された人からの辞退は牧師の判断による。
- ・会計報告。6月分の水道光熱費は減少(前年比)。ミニバザーなどの収益も増加。
- ・未来検討プロジェクトもしくは長期ビジョンプロジェクトを臨時教会委員会(6/23)で承認。課題:教会の中長期的未来を視野に入れ、具体的な宣教課題を実施。毎年評価し、課題を継承、新課題を加える。期間:2008年~2013年。任務:委員1年交代。ただし留任を妨げない。
- ・事務スタッフを承認。名倉徹さん、西澤功幸さん、西依彩さん。
- ・メンテナンス。耐震構造まで診断をすると、修理には数千万円かかる。
- ・メンテナンス。礼拝堂のアスベストは、当分心配の恐れがない。礼拝堂のチャネル横の大理石が外れている、施工の清水建設と交渉する。

